

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

2, 4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジンの藻類(*Selenastrum capricornutum*)に対する
生長阻害試験

試験番号

92045

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.201「藻類生長阻害試験」(1984年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： 2, 4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン
- 2) 試験生物： *Selenastrum capricornutum* (ATCC 22662株)
- 3) 初期細胞濃度： 1×10^4 細胞/mL
- 4) 暴露期間： 72時間
- 5) 培養方式： 振とう培養 (100 rpm)
- 6) 試験濃度： 100、62.5、39.1、24.4、15.3 mg/L(公比：1.6)及び対照区
- 7) 連 数： 1試験区につき3連
- 8) 試験液量： 1試験容器(1連)につき100 mL
- 9) 試験水温： $23 \pm 2^\circ\text{C}$
- 10) 照 明： 4,000～5,000 lux (連続照明)
- 11) 試験液中の被験物質の分析： 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)
(暴露開始時、暴露終了時)

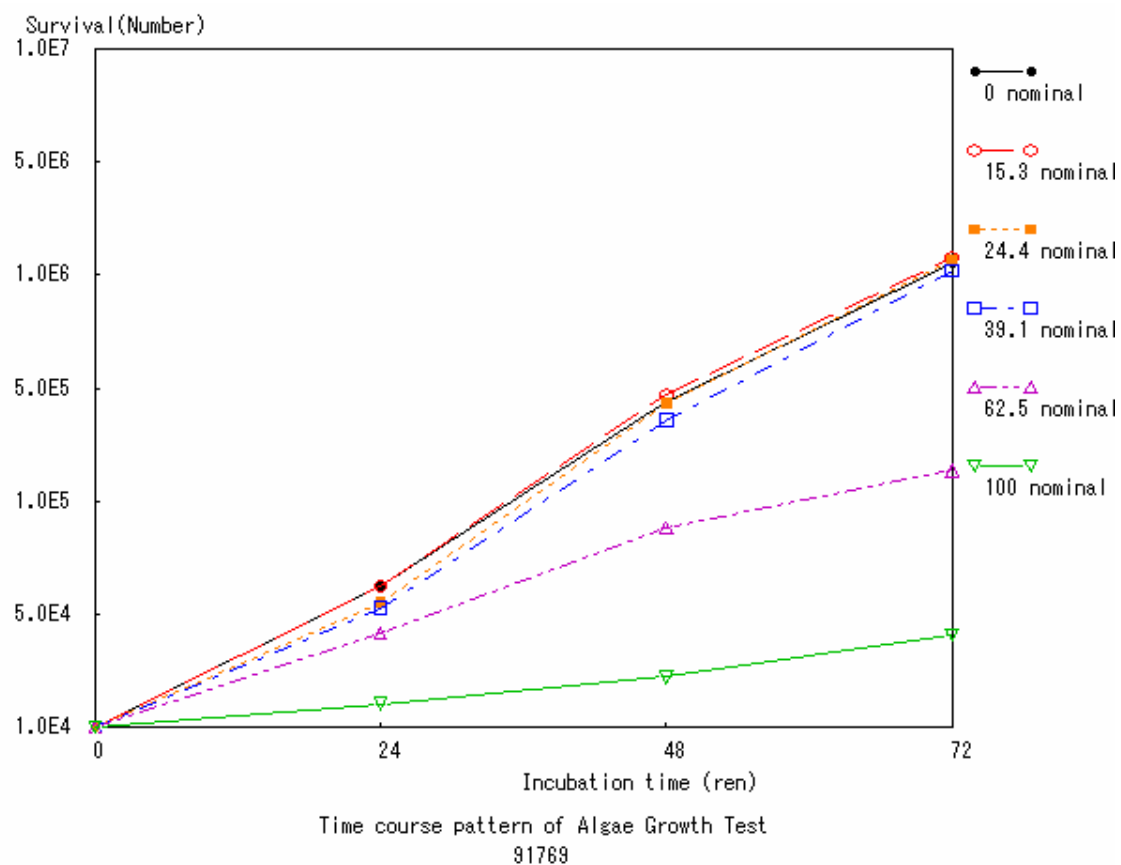
結 果

- 1) 生長曲線下の面積の比較による50%生長阻害濃度(E_bC50)及び最大無作用濃度(NOEC)
 $E_bC50(0-72h) = 53.7 \text{ mg/L}$
 NOEC = 24.4 mg/L
- 2) 生長速度の比較による50%生長阻害濃度(E_rC50)及び最大無作用濃度(NOEC)
 $E_rC50(24-48h) = 68.2 \text{ mg/L}$ (95%信頼限界：59.0～78.8 mg/L)
 NOEC = 39.1 mg/L
 $E_rC50(24-72h) = 69.3 \text{ mg/L}$
 NOEC = 39.1 mg/L

(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン (Cas. 91-76-9)

生長曲線



毒性値

- ・0-72hErC₅₀: 71 mg/L
- ・0-72hNOECr: 39 mg/L

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジンのオオミジンコ(*Daphnia magna*)に対する急性遊泳阻害試験

試験番号

92046

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験及び繁殖試験」(1984年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質：2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン
- 2) 試験生物：オオミジンコ(*Daphnia magna*)
- 3) 生物数：20頭/試験区(1連につき5頭で1試験区20頭)
- 4) 暴露期間：48時間
- 5) 暴露方式：止水式
- 6) 試験濃度：300、120、48.0、19.2、7.68 mg/L(公比：2.5)及び対照区
- 7) 連 数：1試験区につき4連
- 8) 試験液量：1試験容器(1連)につき200 mL
- 9) 試験水温：20±1℃
- 10) 照 明：室内光、16時間明/8時間暗
- 11) 試験液中の被験物質の分析：高速液体クロマトグラフィー(HPLC)
(暴露開始時、暴露終了時)

結 果

- 1) 24時間暴露後の結果
24時間半数遊泳阻害濃度(EiC50)=112 mg/L (95%信頼限界：87.6～143 mg/L)
- 2) 48時間暴露後の結果
48時間半数遊泳阻害濃度(EiC50)=52.0 mg/L (95%信頼限界：40.8～67.0 mg/L)
最大無作用濃度(NOECi)=7.68 mg/L
100%阻害最低濃度=300 mg/L
(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

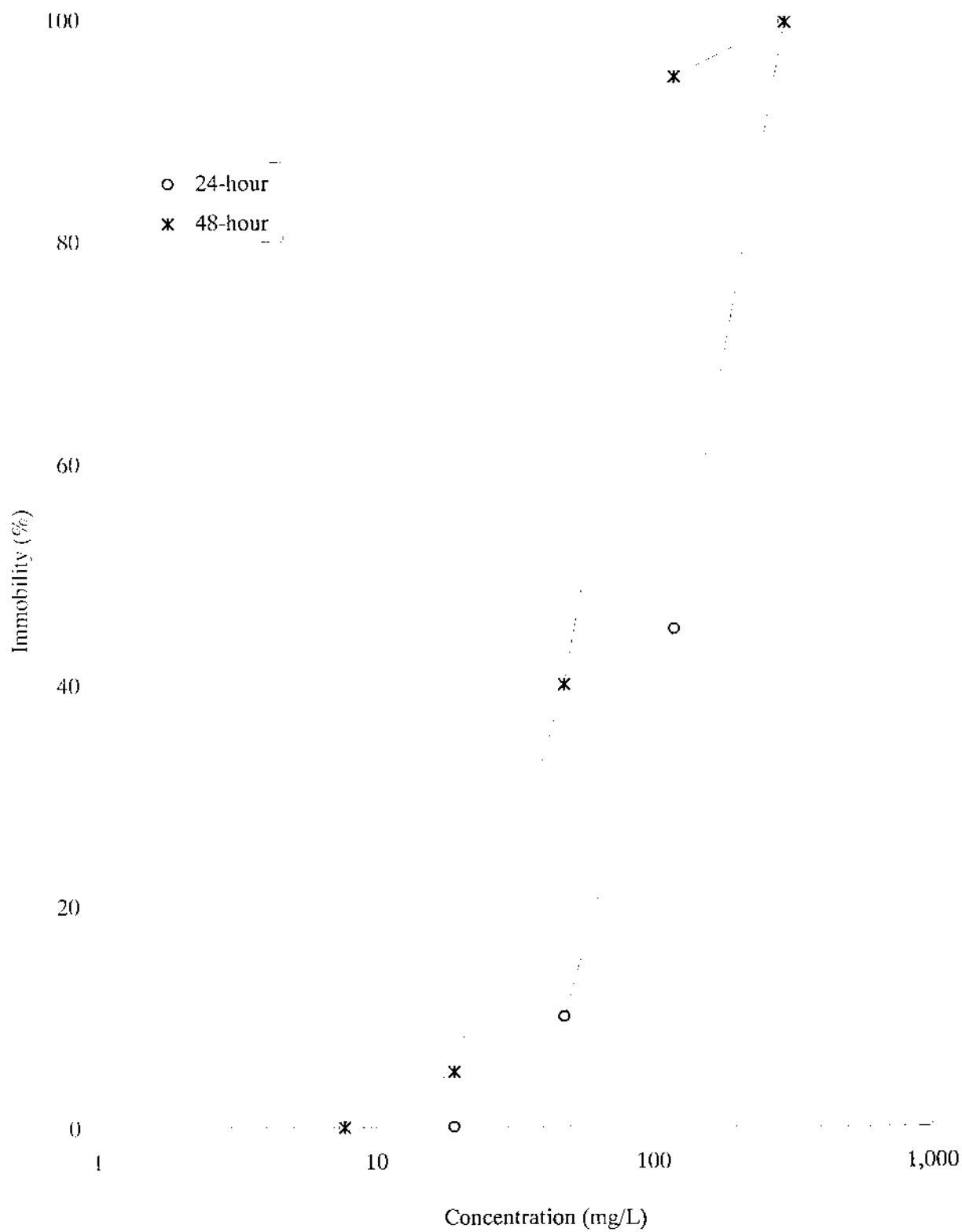


Figure 1. Concentration - toxicity curve of 2,4-diamino-6-phenyl-s-triazine in *Daphnia magna*.

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

2, 4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジンのオオミジンコ(*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験

試験番号

92047

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験及び繁殖試験」(1984年4月採択)の改訂版であるガイドラインNo.211「オオミジンコ繁殖試験」(1997年4月提案)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質：2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン
- 2) 試験生物：オオミジンコ(*Daphnia magna*)
- 3) 生物数：10頭/1試験区(1連につき1頭で1試験区10頭)
- 4) 暴露期間：21日間
- 5) 暴露方式：半止水式(週に3回、試験液を交換)
- 6) 試験濃度：20.0、11.1、6.17、3.43及び1.91 mg/L(公比：1.8)及び対照区
- 7) 連数：1試験区につき10連
- 8) 試験液量：1試験容器(1連)につき80.0 mL
- 9) 試験水温：20±1℃
- 10) 照明：16時間明(1,200 lux以下)/8時間暗
- 11) 試験液中の被験物質の分析：高速液体クロマトグラフィー (HPLC)
(0、2、10、13、15及び17日目)

結 果

- 1) 21日間の親ミジンコの50%致死濃度(LC50)
= 13.4 mg/L (95%信頼限界：6.17～20.0 mg/L)
- 2) 21日間の50%繁殖阻害濃度(EC50)
= 5.91 mg/L (95%信頼限界：5.48～6.37 mg/L)
- 3) 最大無作用濃度(NOEC)
= 1.91 mg/L
- 4) 最小作用濃度(LOEC)
= 3.43 mg/L
(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

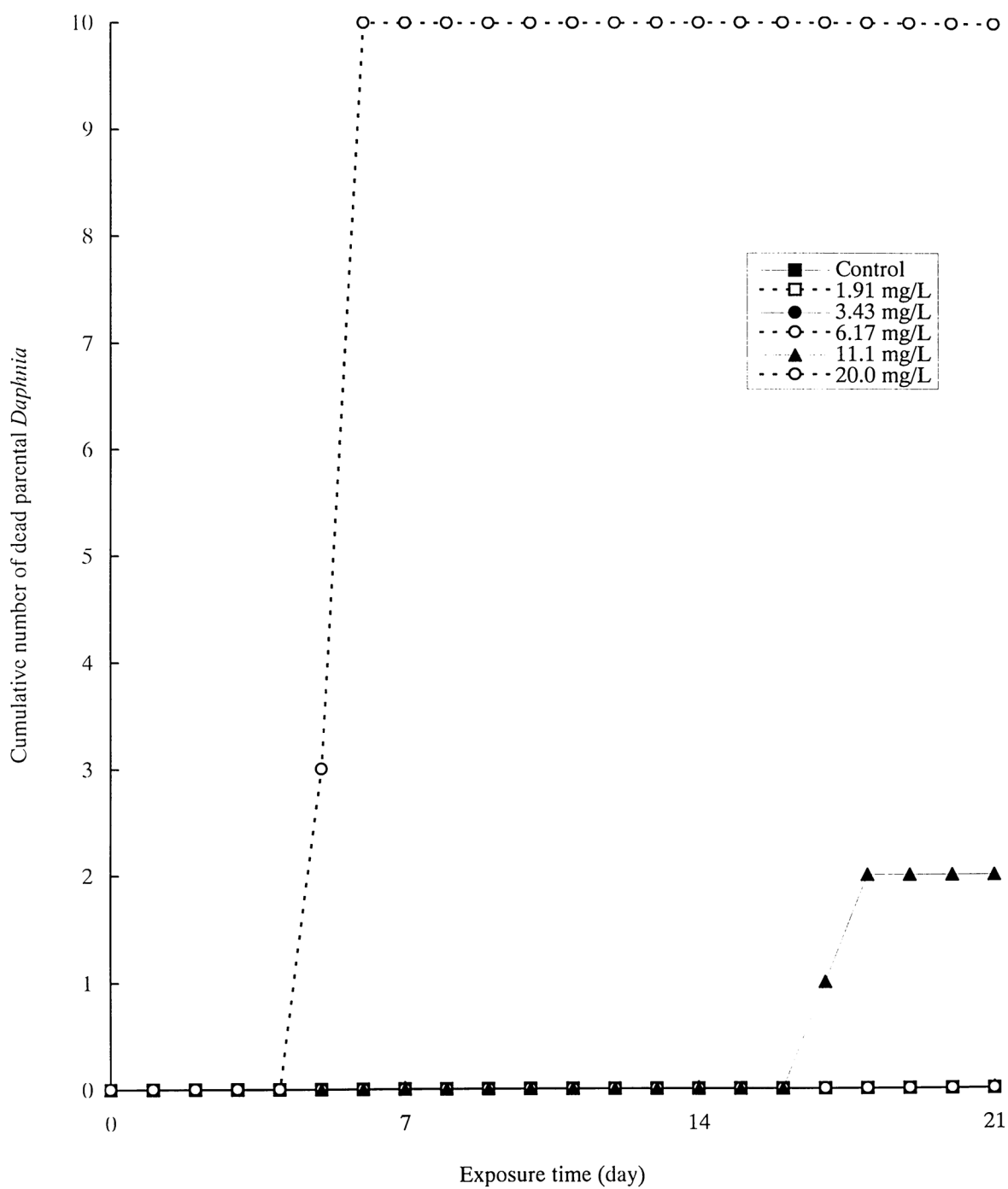


Figure 1. Cumulative number of dead parental *Daphnia*.

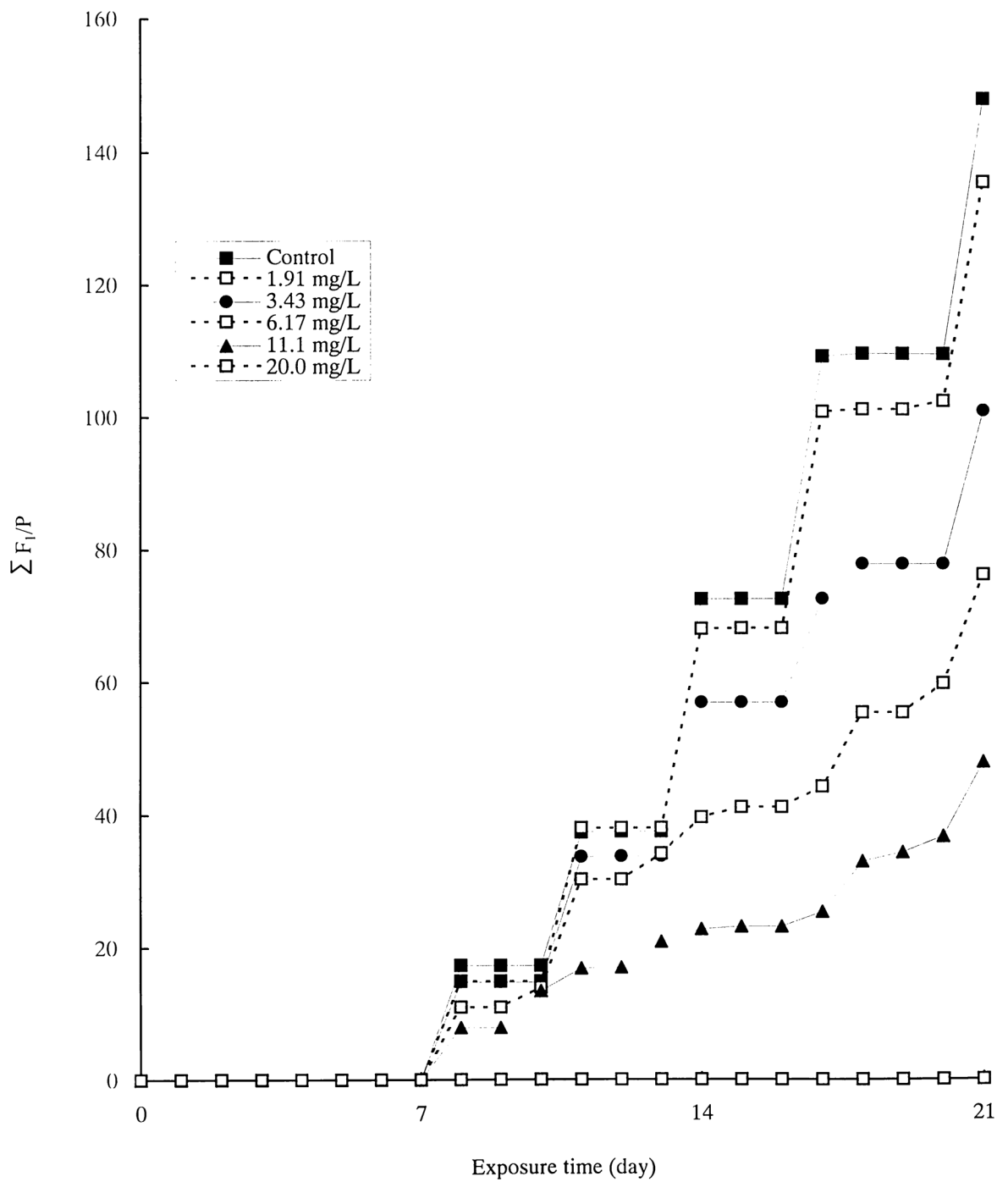


Figure 2. Mean cumulative number of juveniles produced per adult ($\Sigma F_1/P$).

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

2, 4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジンのヒメダカ(*Oryzias latipes*)に対する急性毒性試験

試験番号

92048

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.203「魚類急性毒性試験」(1992年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： 2,4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン
- 2) 試験生物： ヒメダカ(*Oryzias latipes*)
- 3) 生物数： 10尾／1試験区(1連につき5尾で1試験区10尾)
- 4) 暴露期間： 96時間
- 5) 暴露方式： 半止水式(48時間後に試験液を交換)
- 6) 試験濃度： 100、50.0、25.0 mg/L(公比：2.0)及び対照区
- 7) 連数： 1試験区につき2連
- 8) 試験液量： 1試験容器(1連)につき2.5 L
- 9) 試験水温： 24±1℃
- 10) 照明： 室内光、16時間明／8時間暗
- 11) エアレーション： なし
- 12) 試験液中の被験物質の分析： 高速液体クロマトグラフィー(HPLC)
(暴露開始時、換水前)

結 果

- 1) 96時間の半数致死濃度 (LC50) >100 mg/L
- 2) 0%死亡最高濃度 = 50.0 mg/L
- 3) 100%死亡最低濃度 >100 mg/L
(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

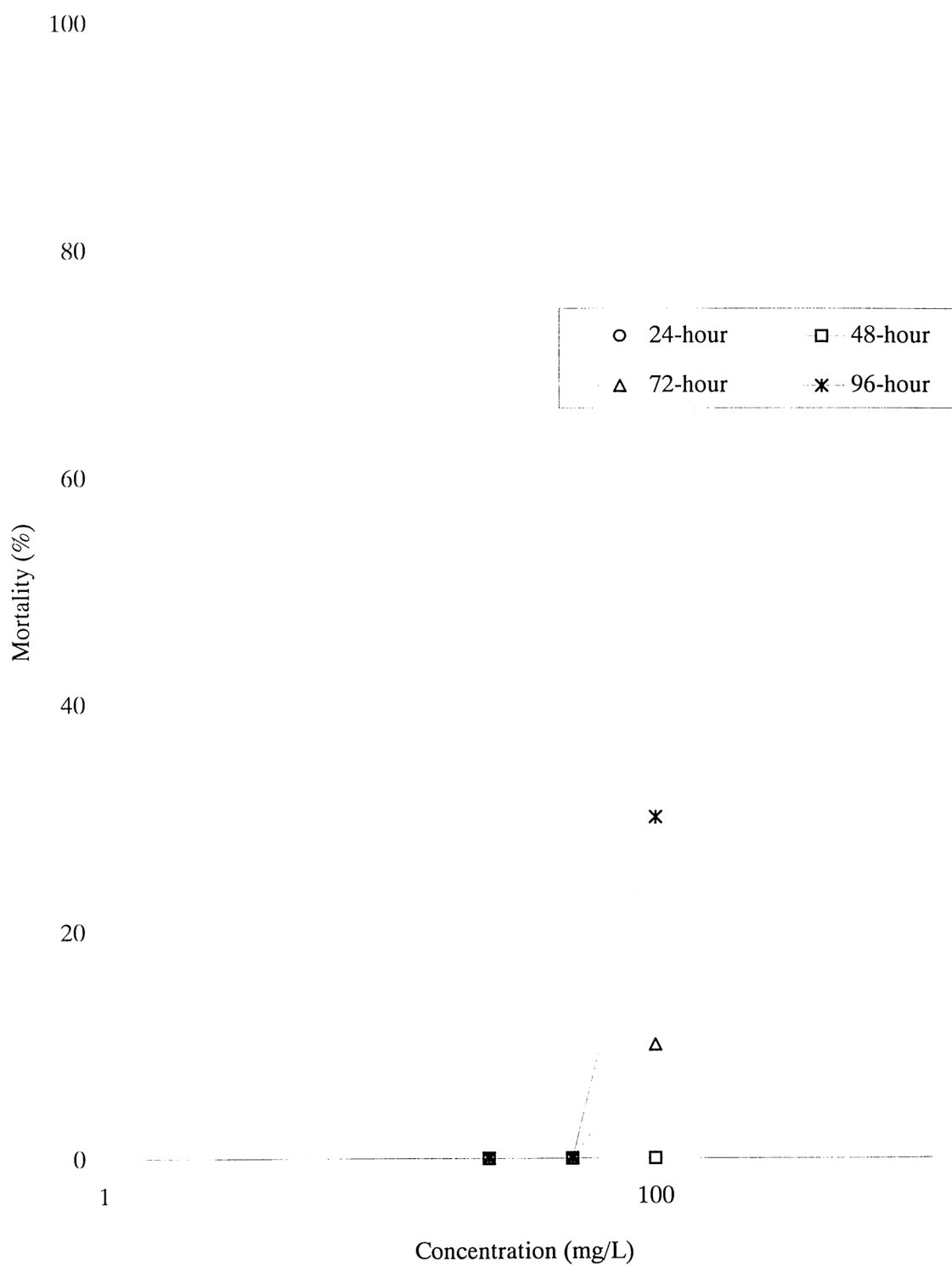


Figure 1. Concentration - toxicity curve of 2,4-diamino-6-phenyl-s-triazine in orange killifish (*Oryzias latipes*).